

かつては「髪は女の命」とか言われたが、男女の明確な区別もなくなってきた昨今では、「男」「女」という呼称を使うのが憚られる。履歴書にも記載がなくなった。学校の名簿からも男女の別がはずされていないところもあるらしい。功罪はいろいろとまだ残るが、時代は進んでいるということなのか。

さてさて、髪の魔力というものに縛られていた自分から自由になると、さまざまなことから自由になれるようだ。そもそも最初から魔力なんてものはないのか。この世の魔力というものは、ほとんどが自分の中で作り出しているものなのだろう。

先日面白いことを聞いた。

ある男役俳優さんが、自分のカッコいいシーンを振り返って、「前髪がいい仕事をしてくれた」という感想を漏らされた。たしかに、カッコよく、「バサッ」と落ちる感じが場面にマッチしている。その俳優さんによると、男役の場面が決まるかどうかは、前髪によるものらしい。もしも仕事の良し悪しにま

で髪が関わっているとすると、人間にとって髪というのは、生きる根幹にかかわる、とても重要な部分なのかもしれない。となると、「髪のことには触れてはならない」という某カウンセラーさんの言葉にも改めてうなずける。

動作課題にのっとってからだを動かすことで、実際にこのころのタガがゆるむ。そのタガの隙間から、こころの奥底に抑え込んでいた自分がにじみ出てくる。

真面目すぎるA子の反乱。A子は几帳面で、周りからも良く思われたくて、失敗を恐れていた。そのA子が学校を無断で欠席した。朝がどうしても起きられなくなってしまった。体が重くて起きられない。意識は起きている。起きなければ、とも思う。でも起きられない。そもそも起きたくないのだ。ふとんの中でじっとしているうちに時間がすぎていく。そのうちとうとうとしてきて寝てしまう。起きた時にはとうにお昼をすぎている。

相談室に連れてこられたA子は、どうしてそんな

ってしまったのかわからないという。A子の背中ががちがちに固まっていた。「ペコポコ課題」なるものをして、背骨に意識を持っていき、分節化してもらう。ほんの少ししか動かしていないのに、とても疲れたという。

一週間後に現れたA子は、夢の話をし始める。夢でキャンプに行っていた。みんな食事の準備をし始めるが、自分はテントの中で倒れこんでしまった。起きようとしても起きられない。そのときに、楽しいはずのキャンプにも起きられないほど自分は疲れているんだと感じたという。そして、そんな自分に對して優しく見守ってくれる親の存在に驚いたとも。翌週現れたA子は、また夢の話をする。美容室に行つて、ふんわりパーマを当ててもらう夢。案外似合っているからびっくりしたと。ついでに黄色く染めてもらうことにした。校則違反だとはわかっていたが、染めたい気持ちには勝てなかった。

美容室を出ると、外は一面の草原だった。太陽の光がキラキラとまぶしい。黄色く染めたばかりの自分の髪が、あたりの風景に溶け込んでいて、風に靡

いて気持ちいい。太陽の光と自分の髪が、草原で踊っている。このときほど自由を感じたことはなかったという。

その翌週。A子の耳にはピアスの穴が開いていた。「ピアスの穴を開けると、人生が変わるって。知ってた？先生。」A子はキラキラと笑った。

A子のからだはとても柔軟になっていた。股関節から上体を前に倒して起き上がる前屈動作で、じつくりと自分のからだの状態を感じているのが、こちら側からもわかった。

A子は夢を見なくなった。

A子は登校を始めた。周囲の生徒たちは、A子の雰囲気がかがりと変わったことに驚いた。髪を薄く茶色に染めて、ピアスの穴を開けて座っているA子は、教室での時間を静かに過ごし、放課後になれば静かに帰っていった。授業中に当てられても、ごく自然に「わかりません。」と言うこともあれば、質問に答えることもあった。

A子はもう相談室に来ることもなくなった。